

(2014年度)

## 4 世界史問題 (60分)

(この問題冊子は18ページ，4問である。)

### 受験についての注意

1. 監督の指示があるまで，問題冊子を開いてはならない。
2. 試験開始前に，監督から指示があったら，解答用紙の右上の番号が自分の受験番号と一致することを確認し，所定の欄に氏名を記入すること。次に，解答用紙の右側のミシン目にそって，きれいに折り曲げてから，受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し，机上に置くこと。
3. 監督から試験開始の指示があったら，この問題冊子が，上に記したページ数どおりそろっていることを確かめること。
4. 筆記具は，HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能，計算機能，辞書機能などを使用してはならない。
5. 解答は解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで，そのマーク欄をぬりつぶすこと。その他の部分には何も書いてはならない。
6. マークをするとき，マーク欄からはみ出したり，白い部分を残したり，文字や番号，○や×をつけてはならない。
7. 訂正する場合は，消しゴムでていねいに消すこと。消しくずはきれいに取り除くこと。
8. 解答用紙を折り曲げたり，破ったりしてはならない。
9. 試験時間中に退場してはならない。
10. 解答用紙を持ち帰ってはならない。
11. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

1 次の文章を読んで、問(1～3)に答えなさい。

( 1 )朝から圧迫を受け、( 2 )を征服されていたビザンツ帝国は教皇ウルバヌス2世に救援をもとめてきた。これを受け教皇は1095年、クレルモン<sup>(ア)</sup>宗教会議を開催して、聖地回復のための戦いを提唱した。こうして1096年に出発したのが第1回十字軍である。この遠征で十字軍は( 3 )年、イエルサレム<sup>(イ)</sup>( 4 )をたてた。その後、勢力をもりかえしたイスラームに対し、第2回十字軍、ついで第3回十字軍がおこされるがいずれも不首尾に終わった。第3回十字軍では、神聖ローマ皇帝フリードリヒ1世<sup>(B)</sup>、フランス王フィリップ2世<sup>(C)</sup>、イギリス王リチャード1世<sup>(D)</sup>が参加して、十字軍の最高潮ともいわれたが、名将サラディン<sup>(E)</sup>を前に苦戦し、結局、休戦することになる。

第4回十字軍では、商業圏拡大を狙っていたヴェネツィア<sup>(イ)</sup>( 5 )が主導権をもった。聖地回復という目的から逸脱した十字軍はコンスタンティノブル<sup>(ウ)</sup>を占領し、ラテン( 6 )をたてる。このことによってヴェネツィアは東方貿易を拡大し、最盛期をむかえた。東方貿易では遠く南アジアから運ばれてきた( 7 )などが主な交易品であった。

第5回十字軍は神聖ローマ皇帝フリードリヒ2世<sup>(F)</sup>がおこしたものだが、実際には戦闘は行われず、アラビア語に堪能な皇帝はイスラーム側との協議でイエルサレム<sup>(エ)</sup>を一時期回復させた。

しかし最終的には、( 8 )年、イエルサレム( 4 )の最後の拠点であるアッコ<sup>(オ)</sup>が陥落したことで、十字軍は失敗に終わる。

問1 空欄(1～8)にもっとも適切なものを選択肢(a～e)から1つ選びなさい。

- (1) a ファーティマ    b アッパース    c ブワイフ  
d ザンギー    e セルジューク
- (2) a バルカン半島    b トラキア    c コーカサス山脈  
d シナイ半島    e 小アジア
- (3) a 1098    b 1099    c 1108    d 1109    e 1113

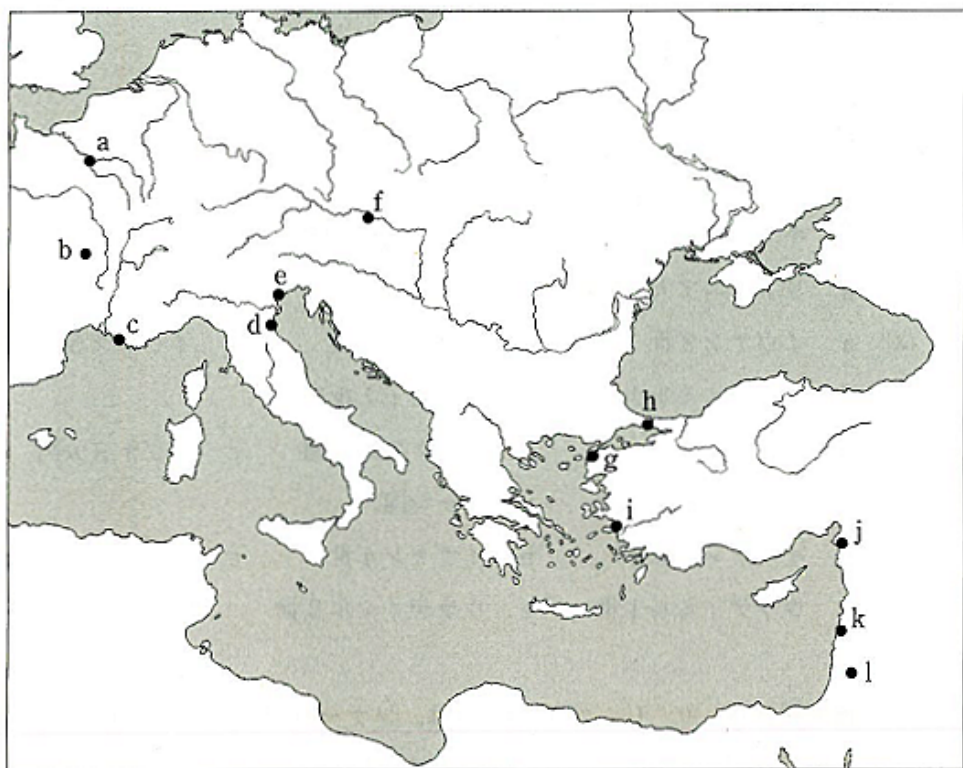
- (4) a 王国 b 公国 c 大公国 d 共和国 e 帝国
- (5) a 王国 b 公国 c 大公国 d 共和国 e 帝国
- (6) a 王国 b 公国 c 大公国 d 共和国 e 帝国
- (7) a 海産物 b 木材 c 穀物 d 毛織物 e 香辛料
- (8) a 1270 b 1282 c 1284 d 1289 e 1291

問2 下線部(A～F)に関する文のうち、誤っているものを選択肢(a～e)から1つ選びなさい。

- (A) a フランスの諸侯や騎士が多く参加した。  
 b 海路を中心に東に進んだ。  
 c 兵士たちが十字の印を付けていたことから十字軍と呼ばれた。  
 d 十字軍内ではフランスとドイツの対立が目立っていた。  
 e 当初、ビザンツ皇帝アレクシオス1世とはうまく協調できなかった。
- (B) a シュタウフェン朝の皇帝で、彼の時代に最盛期をむかえる。  
 b イタリア遠征は一時成功するかに見えたが、1176年ロンバルディア同盟軍に敗れた。  
 c イタリア政策によって国内勢力の集権化が進んだ。  
 d 十字軍遠征途上、ギリキアのサレフ川で溺死した。  
 e 赤みがかったブロンドの鬚<sup>ひげ</sup>をたくわえていたことからバルバロッサ(赤鬚王)とよばれた。
- (C) a パリ伯ユーグ＝カペーがはじめたカペー朝の王である。  
 b 彼ははじめて三部会を招集した。  
 c 封建諸侯をおさえて王権を強化した。  
 d イギリス王ジョンから大陸領を奪った。  
 e 彼の協力によって法的に大学となったパリ大学は当初、大聖堂付属神学校だった。

- (D) a 1189年に即位，1199年に死亡した。
- b サラディンと孤軍奮闘の末，休戦協定を結んだが，サラディンからは騎士の鑑と称えられた。
- c 十字軍から戻った後，フランスとの戦いで死んだ。
- d プランタジネット朝イギリス王であった。
- e 父のヘンリ3世は，アンジュー伯でもありフランス名はアンリだった。
- (E) a アイユブ朝の建国者だが，同王朝は第3，5，6回十字軍と戦った。
- b アイユブ朝はスンナ派で，首都はカイロにおかれた。
- c アイユブ朝のエジプト地域はやがてモンゴルに征服されることとなった。
- d クルド出身の武将であった。
- e 1187年にエルサレムを奪回した。
- (F) a 彼が育った当時のシチリアでは西欧，東欧，そしてイスラームの文化が混在し，洗練された宮廷文化が開花していた。
- b アラビア法学を積極的にとり入れたサレルノ大学は，彼のもとでさらに繁栄し，法学の中心となった。
- c ドイツ諸侯および都市に対して多くの特権を認めたため，領邦体制が促進された。
- d 彼の死後ほどなくシュタウフェン朝は滅亡し，神聖ローマ帝国は大空位時代を迎えた。
- e 神聖ローマ帝国では1356年，金印勅書が出されたが，これによってさらに帝国内は分裂していった。

問3 下線部(ア), (イ)の位置を地図の a～f から, 下線部(ウ)～(オ)の位置を地図の g～l から選びなさい。



**2** 以下の文章(A～D)の空欄(1～25)にもっとも適切なものを選択肢(a～e)から1つ選びなさい。

(A) ドニエプル川の上・中流域に住んでいたインド＝ヨーロッパ語系のスラブ人は6世紀から7世紀にかけて各地に移動した。そのスラブ人のうち、北方に拡大した( 1 )は、ドニエプル川流域に進出していたノルマン人と接触し、9世紀末にはノヴゴロド国に、ついで( 2 )に統合された。( 2 )は、10世紀になるとビザンツ帝国と交易し、( 3 )の時代にギリシア正教をとり入れ、ビザンツの文字や学芸を導入して、( 2 )の最盛期をつくった。( 2 )は、13世紀まで独立を維持していたが、モンゴル人の遠征により滅

び、住民はキプチャク＝ハン国に貢納をしいられた。しかし、15世紀には( 4 )が勢力をのぼし、1480年には( 5 )によってキプチャク＝ハン国から独立した。

- (1) a 北スラブ人                      b 西スラブ人                      c 東スラブ人  
    d 南スラブ人                      e ルーシ人
- (2) a キエフ公国                      b モスクワ大公国                  c リヴォフ公国  
    d リトアニア大公国                  e ルーシ国
- (3) a イヴァン3世                      b イヴァン4世                      c イヴァン5世  
    d ウラディミル1世                  e ウラディミル2世
- (4) a キエフ公国                      b モスクワ大公国                  c リヴォフ公国  
    d リトアニア大公国                  e ルーシ国
- (5) a イヴァン3世                      b イヴァン4世                      c イヴァン5世  
    d ウラディミル1世                  e ウラディミル2世

(B) 16世紀後半、( 4 )の( 6 )は、ツァーリ(皇帝)の称号を正式採用した。かれは中央集権をはかり、それまで勢力をふるっていた貴族に対し、領地没収やテロルを用いた弾圧をおこない、雷帝とおそれられた。かれの死後の動乱の時代を経て、( 7 )年にミハイル＝ロマノフが皇帝に即位し、ロマノフ朝が成立すると、専制はさらに強化され、( 8 )の農民反乱が起きた。その鎮圧の後に即位した( 9 )は、ヨーロッパ諸国を視察したのち、技術者・職人を連れて帰国し、産業をおこし、軍制・財政制度の改革や行政機構の整備などの近代化政策をおこなった。教会制度も改革し、ビザンツ帝国滅亡後ギリシア正教を担ってきたロシア正教会に対する支配を強めた。また海への出口を求め、( 10 )と戦ってアゾフ海に進出する一方、カール12世の( 11 )と( 12 )を戦った。18世紀の後半に出た( 13 )は、啓蒙専制君主といわれ、社会体制の近代化をはかったが、( 14 )の農民反乱やフランス革命に直面して保守化し、農奴制を強めるなどの政策をとった。

- (6) a イヴァン2世    b イヴァン3世    c イヴァン4世  
      d イヴァン5世    e イヴァン6世
- (7) a 1611    b 1613    c 1615    d 1617    e 1619
- (8) a ステンカ=ラージン    b デカブリスト    c ナロードニキ  
      d ブガチョフ            e ポーランド
- (9) a アレクサンドル1世    b エカチェリーナ1世  
      c エカチェリーナ2世    d ピョートル1世        e ピョートル2世
- (10) a オーストリア    b オスマン帝国    c カージヤール朝  
      d スウェーデン    e デンマーク
- (11) a オーストリア    b オスマン帝国    c カージヤール朝  
      d スウェーデン    e デンマーク
- (12) a クリミア戦争    b バルト海戦争    c 冬戦争    d 北方戦争  
      e 露土戦争
- (13) a アレクサンドル1世    b エカチェリーナ1世  
      c エカチェリーナ2世    d ピョートル1世        e ピョートル2世
- (14) a ステンカ=ラージン    b デカブリスト    c ナロードニキ  
      d ブガチョフ            e ポーランド

(C) ロシアは、16世紀後半から毛皮などを求めてシベリアを東進し、17世紀前半には太平洋岸に達した。さらにロシアは、南進して黒竜江(アムール川)流域に進出すると、清と衝突するようになった。当時、清朝の皇帝であった( 15 )は、三藩の乱を鎮圧し、また台湾を根拠地として「反清復明」の運動を続ける鄭氏一族をくだして1683年に台湾を領土に加えるなど、清朝統治の基礎をかためた。かくしてロシアと清は、( 16 )年、ネルチンスク条約を締結して国境を定めた。この条約は、清朝がヨーロッパの国と結んだ最初の対等の条約であった。( 15 )のあとを継いだ( 17 )も内政に力をそそいで国力の充実をはかるとともに、ロシアと( 18 )年にキャフタ条約を締結して、西部国境を定め、通商などについてとりきめた。

- (15) a 乾隆帝    b 康熙帝    c 光緒帝    d 同治帝    e 雍正帝  
 (16) a 1681    b 1683    c 1685    d 1687    e 1689  
 (17) a 乾隆帝    b 康熙帝    c 光緒帝    d 同治帝    e 雍正帝  
 (18) a 1721    b 1723    c 1725    d 1727    e 1729

(D) 18世紀後半，ロシアはオホーツク海まで進出し，日本にも( 19 )に率いられた使節をおくった。この使節は，日本の漂流民の大黒屋光太夫をともなって( 20 )年に根室へ来航し，翌年まで箱館，松前において通商交渉をおこなったが，光太夫の送還ははたしたものの，通商交渉は長崎入港許可証をえるにとどまった。その後，日本とロシアの通商交渉は，1804年のレザノフの長崎訪問をへて，ようやく( 21 )年の日露和親条約の締結によって結実した。この条約では，千島列島の択捉島以南を日本領とし，樺太に関しては国境を定めず，両国人の雑居地域とした。ロシアは，清に対しては( 22 )年にアイグン条約を結んで黒竜江(アムール川)以北を領有した。ついで( 23 )年には北京条約を締結して沿海州を獲得し，( 24 )港をひらいて太平洋進出の根拠地とした。一方，( 25 )年には，日露間で樺太・千島交換条約を結んで樺太をロシア領，千島列島を日本領と定めた。

- (19) a イェルマーク    b ベーリング    c マルトフ  
       d ムラヴィヨフ    e ラクスマン  
 (20) a 1790    b 1792    c 1794    d 1796    e 1798  
 (21) a 1851    b 1853    c 1855    d 1857    e 1859  
 (22) a 1850    b 1852    c 1854    d 1856    e 1858  
 (23) a 1860    b 1862    c 1864    d 1866    e 1868  
 (24) a ウラジヴォストーク    b 大連    c ニコラエフスク  
       d ハバロフスク            e 旅順  
 (25) a 1871    b 1873    c 1875    d 1877    e 1879



3 アジア、中東、アフリカの政治指導者や思想家について、以下の説明にもっともふさわしい人物を、選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

(1) 19世紀後半から20世紀初頭にかけて、タイの近代化を目指して様々な改革を実施したタイの国王。

- a ランジット=シング王    b ラーマ1世    c ダライ=ラマ13世  
d ラーマ5世

(2) シンガポール共和国が発足した1965年から1990年まで同国首相を務めた人物。

- a ビブン    b リー=クアンユー    c ネ=ウイン    d メガワティ

(3) ベトナム共産党指導者としてベトナム民族主義運動を率い、ベトナムの初代大統領を務めた人物。

- a ファン=ボイ=チャウ    b ティトー    c ホー=チ=ミン  
d ゴ=ディン=ジエム

(4) インドネシアの軍人で、30年以上の長期にわたってインドネシア大統領を務め、1998年に辞任した人物。

- a スハルト    b ハビビ    c スカルノ    d ユドヨノ

(5) 19世紀末フィリピンの民族主義運動指導者で、文学作品や民族学・歴史学の研究を通じてフィリピン民族意識の形成に貢献した人物。

- a サン=マルティン    b アギナルド    c シモン=ポリバル  
d ホセ=リサール

(6) 1955年、アメリカ合衆国の支援を受けてベトナム南部にベトナム共和国を樹立した人物。

- a バオダイ    b ホー=チ=ミン    c ネ=ウイン  
d ゴ=ディン=ジエム

(7) 1970年代初頭、フィリピンで戒厳令を布告して強権支配を行い、1986年に民主化運動の高揚によって政権を追われたフィリピン大統領。

- a マルコス    b コラソン=アキノ    c スハルト    d ケソン

- (8) 王族出身で、カンボジアの国王や国家元首を務めた政治家。
- a タクシン=チナワット    b フン=セン    c シハヌーク  
d マハティール
- (9) ビルマの独立運動指導者で、タキン党書記長を務めた人物。
- a ウ=タント    b スー=チー    c テイン=セイン  
d アウン=サン
- (10) アジア人として初めてノーベル賞を受賞したインドの文学者・思想家。
- a ガンディー    b タゴール    c ラーム=モーハン=ローイ  
d カルティニ
- (11) フランス植民地支配下のベトナムで、フランス支配からの解放をめざして、ベトナム人青年を日本に留学させる東遊(ドンズー)運動を行った人物。
- a ホー=チ=ミン    b ファン=デン=ボス  
c ファン=ボイ=チャウ    d サヤ=サン
- (12) インドの民族主義運動指導者の一人として反英独立闘争を率い、インド独立後、初代首相に就任した人物。
- a ジンナー    b ガンディー    c テイラク    d ネルー
- (13) トルコの軍人で、オスマン帝国を打倒してスルタン制を廃止し、トルコ共和国の初代大統領に就任した人物。
- a ムスタファ=ケマル    b ムシャラフ    c ムハンマド=アブドゥフ  
d ミドハト=パシャ
- (14) イラン=イラク戦争、および、湾岸戦争当時のイラク大統領。
- a バッシャーール=アサド    b カダフィ    c サダム=フセイン  
d ムバラク
- (15) イランのシーア派指導者で、1979年のイラン革命を指導し、革命後、イスラームの教えに基づく諸政策を実施した人物。
- a レザー=ハーン    b ホメイニ    c モサデク  
d パフレヴィー2世

- (16) 1979年、ベトナムの支援を受けてカンボジア人民共和国を樹立したカンボジアの政治家。
- a フン=セン    b シハヌーク    c ボル=ポト  
d ヘン=サムリン
- (17) パレスチナ解放機構の議長として、パレスチナ民族解放闘争を指導し、後にパレスチナ暫定自治政府の長官に就任した人物。
- a イブン=アブドゥル=ワッハーブ    b ラビン    c サダト  
d アラファト
- (18) 中華人民共和国初代首相を務め、アジア・アフリカの民族主義運動に影響を与えた人物。
- a 周恩来    b 劉少奇    c 毛沢東    d 孫文
- (19) 大韓民国初代大統領を務めた韓国の政治家。
- a 金大中    b 李承晩    c 朴正熙    d 盧泰愚
- (20) 自由将校団を率いてエジプト革命を実行し、後に大統領に就任したエジプトの政治家。
- a ナセル    b サダト    c カダフィ    d ムハンマド=アリー
- (21) 南アフリカの黒人解放運動の指導者で、後に南アフリカ大統領に就任した人物。
- a エンクルマ    b マンデラ    c アミン    d アジェンデ
- (22) アフリカ統一運動を推進したガーナ初代大統領。
- a ルムンバ    b デクラーク    c エンクルマ    d セク=トゥーレ
- (23) 外国支配が強まる19世紀末エジプトにおいて、エジプト人の解放を掲げて武装蜂起を指導した人物。
- a イブン=サウード    b アフガーニー    c ウラービー  
d ムハンマド=アフマド
- (24) 1974年のエチオピア革命によって倒れたエチオピア帝国最後の皇帝。
- a ハイレ=セラシエ    b アブデュル=ハミト2世  
c アブデュル=メジト1世    d メフメト2世

(25) 文化大革命期に失脚したが、後に復活し、資本主義的経済政策を導入した中国共産党指導者。

- a 毛沢東    b 林彪    c 鄧小平    d 劉少奇

**4** 次の文章(A～C)を読み、下線部(①～⑫)に関する問(1～12)に答えなさい。  
解答は選択肢(a～e,あるいはa～j)から適するものを選びなさい。解答の数はそれぞれの問が指定しているので注意すること。

(A) 2013年、第5回アフリカ開発会議(TICAD)が横浜で開催された。報道によれば、アフリカは、現在、「最後のフロンティア」として注目されているという。それは資本主義的な巨大市場としての「フロンティア」である。確かに11億人<sup>①</sup>と言われる巨大な人口を擁するこの地域<sup>②</sup>は地球上に残された最後の市場であろう。今後、この市場の争奪戦が激化するの疑いない。

これより130年余り前にもアフリカはヨーロッパ列強の注目を浴びていた。列強諸国はこのころ、アフリカを植民地とするための活動を進め、支配地域の<sup>③</sup>拡大に躍起となっていた。原住民の居住地を次々と占領して植民地とした。こうしていわゆる「アフリカ分割」<sup>④</sup>が終了したのである。列強による植民地支配は1950年代末以後、アフリカ諸国の独立が達成されるまで続いた。

問1 下線部①について、正しい記述を1つ選びなさい。

- a この語はアメリカの西部開拓に関して使われ、よく知られるようになった。  
b この語はアメリカ先住民に与えられた居住地を指している。  
c フロンティアが消滅したのちも先住民はフロリダで武力抵抗を続けた。  
d アメリカ先住民はフロンティア＝スピリットをもって白人に抵抗した。  
e フロンティアが消滅したのは日本でいえば大正年間であった。

問2 下線部②について、誤っている記述を1つ選びなさい。

- a 17か国が独立した1960年はアフリカの年とよばれる。
- b アフリカ連合が成立した1991年の人口は約8億人とされていた。
- c アフリカ連合結成の基礎となったのはアフリカ経済共同体であった。
- d アフリカ統一機構は「アフリカは一つ」をスローガンに掲げていた。
- e アフリカ諸国首脳会議でアフリカ統一機構憲章が調印された。

問3 下線部③について、正しい記述を1つ選びなさい。

- a 最初の植民地化は地理的位置の近いイタリアによっておこなわれた。
- b 列強の植民地化に先だっていち早くアフリカを探検したのはスタンリーであった。
- c スタンリーは一時消息不明になったが、リヴィングストンによって救出された。
- d ケープ植民地はイギリスがポルトガルから譲り受けた。
- e イギリスのセシル＝ローズはアパルトヘイト政策を推進した。

問4 下線部④について、正しい記述を1つ選びなさい。

- a 「アフリカ分割」を協定するためにベルリンで国際会議が開かれた。
- b 「アフリカ分割」の地域区分を決定するベルリン会議は1900年に開かれた。
- c オランダのコンゴ領有にかかわる紛争を調停するためビスマルクが会議を開いた。
- d 「アフリカ分割」が終了したのは1890年ころであった。
- e オランダ国王レオポルド2世はスタンリーのコンゴ探検を支援した。

(B) 「アフリカ分割」と同時期、列強はアジアの奥地にも注目していた。そのねらいはアフリカ侵略と同じで、植民地獲得が最終的な目標であった。列強各国は<sup>⑤</sup>アジア奥地への探検・調査を支援し、現地に関する情報を手に入れた。「絹の道」<sup>⑥</sup>の命名者リヒトホーフエンはこうした動きにはずみをつけた学者の一人で

あった。したがって「絹の道」は列強の植民地獲得活動によって〈発見〉されたと  
言えるのである。

1900年ころ以後活発になった調査・研究の結果、オアシス都市などで多くの遺跡や史料が発見され、この地域の地理・歴史がかなり解明された。

問5 下線部⑤について、正しい記述を1つ選びなさい。

- a オランダの探検家タスマンはトゥルファン<sup>⑤</sup>の墓地で文書を発見した。
- b イギリスのスコット探検隊は敦煌の石窟寺院で古文書を発見した。
- c アメリカのピアリ探検隊はタクラマカン砂漠で都市国家の遺跡を発見した。
- d スウェーデンのヘディンは数回にわたりロブノールなどを調査した。
- e イギリスのクックはチベット探検の途中で現地の住民に殺された。

問6 下線部⑥について、誤っている記述を1つ選びなさい。

- a この道は地中海東部から中国の長安・洛陽までを結んでいた。
- b この道は多くのオアシス都市を経由する、東西交通の幹線であった。
- c この道は海上交通の繁栄とともに衰退し、風化して砂漠にうずもれていた。
- d この道が重要な役割を果たすようになるまではステップ＝ロードが中心であった。
- e この道を通じた、絹・陶磁器などの交易は隊商交易とよばれる。

問7 下線部⑦について正しい記述を3つ選びなさい。

- a 敦煌の石窟寺院から大量の古文書が発見され、敦煌文書と称されている。
- b タリム盆地の中央にゴビ砂漠があり、その周辺には多くのオアシス都市がある。
- c タリム盆地の西側に位置するのはチベット高原である。
- d タリム盆地の南側に天山山脈があり、その南北に交易路が通じていた。
- e 漢の高祖が張騫を派遣して以後、西域の事情が明らかになった。
- f 張騫は匈奴をはさみ打ちにするために突厥に派遣された。
- g 漢代以後、オアシス都市の支配権をめぐる激しい争奪戦が続けられた。
- h 唐は高昌国を滅ぼして安西都護府を置き、それを後にクチャへ移した。
- i 吐蕃は8世紀末にこの地域に進出し、安北都護府・北庭都護府を占領した。
- j ソグド商人などが仲介した、中国とオリエント諸国との交易は絹馬交易とよばれる。

(C) 中国史上における開発の例は多いが、なかでも江南の開発はよく知られている。太湖周辺とその東側の平原は、江南デルタなどと称される低湿地で、開発が困難な土地であった。この地域を含む江南の開発に着手したのは南朝政権である。これはいわば中国国内における植民地の建設であった。しかし、本格的な開発が進められ、成果をあげたのは唐代後半期以降である。低湿地の水を抜くことによって新田を造成し、そこに新しい品種の稲を導入したのである。この結果、新しい耕地の面積が増加し、総合的な生産量が伸びたことは確かである。しかし、無秩序に新田が造成されることとなったため、灌漑・排水施設の整備は追いつかなかった。また施肥の方法も確立していなかった。したがってこの時期の稲作は不安定なものであった。これらの問題が解決され、稲作の生産が飛躍的に向上するのは明代以降なのである。

一方、江南の山地を中心とする地域では茶の栽培が盛んになっていた。「茶

経」が著されるなど、茶は短期間のうちに一般に普及し、必須の飲み物となった。ヨーロッパとの交易が盛んになると、茶は重要な輸出品となる。18世紀末<sup>⑫</sup>以後、イギリスの三角貿易においても茶は重要な交易品となっていた。

問8 下線部⑧について正しい記述を1つ選びなさい。

- a この地域の東端は、現在、上海市となっている。
- b 太湖の東側には杭州があり、古くから栄えていた。
- c 大運河はこの地域をほぼ東西に横断している。
- d 大運河の重要な通過地点として南京がある。
- e この地域は長江下流部の北側に位置している。

問9 下線部⑨について誤っている記述を1つ選びなさい。

- a 漢族は五胡とよばれる諸民族の南下によって圧迫され、江南に政権を立てた。
- b この時期に南下してきた五胡とは匈奴・鮮卑・羯・氐・羌の五民族である。
- c 南朝政権とは呉から始まる六つの王朝を指す。
- d 南朝政権はいずれも建康(現在の南京)に都を置いた。
- e 最後の南朝政権は、589年、隋によって滅ぼされた陳である。



問10 下線部⑩について正しい記述を3つ選びなさい。

- a ここで造成された水田は囲田・圩田などとよばれた。
- b 水田を造成するため、低湿地を堤防で囲み、中の水を抜いた。
- c 新しい品種の稲は、現在のインドネシアから伝来した。
- d 新しく導入された品種には早稲という名称が与えられた。
- e 新しい品種を導入させたのは後周の真宗であった。
- f 新しい品種の原産地は、当時の国名では林邑であった。
- g 新田造成の結果、「湖江熟すれば天下足る」という言葉が生まれた。
- h 新田などの大土地所有者階層には官戸形勢戸が多かった。
- i 新田の直接耕作者は、多くの場合自作農としての小農民であった。
- j 北宋中期以後、新興の大土地所有者階層が形成された。

問11 下線部⑪について正しい記述を1つ選びなさい。

- a 茶が中国に伝来したのは漢代である。
- b 茶は北朝時代に、民間に普及した飲み物であった。
- c 『茶経』の著者・陸羽は唐代の人であった。
- d 唐代に蒙古民族は茶を周辺民族に普及させた。
- e ヨーロッパに茶を持ちかえたのはフランシスコ＝ザビエルだった。

問12 下線部⑫について正しい記述を3つ選びなさい。

- a このとき中国と日本の茶がイギリスに運ばれた。
- b イギリスはインド産のアヘンを中国へ運んだ。
- c イギリスの絹製品が中国へ直接運ばれた。
- d 1877年、ヴィクトリア女王はインド皇帝を兼ねた。
- e イギリス東インド会社が解散することによってインド帝国が成立した。
- f 1858年、オランダ東インド会社は中国貿易の独占ができなくなった。
- g 広州の貿易を独占していた特許商人の組合は公所とよばれた。
- h 18世紀末の清朝皇帝は道光帝であった。
- i イギリスのジャーディン＝マセソン商会は茶・絹貿易などで中心的存在だった。
- j 1840年、イギリス国王は東インド会社による中国貿易独占の廃止を命じた。